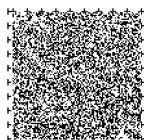


(5) 対象を限定しない福祉サービスの提供

ア 高齢者と障害児・者への一体的なサービス提供

【現状と課題】

- 高齢者向けのデイサービス等の中には、同じ場所で高齢者や障害児・者などにサービスを提供する事業所があります。障害者が高齢になっても使い慣れたデイサービスを使い続けたり、高齢者と児童等との多世代交流を図ったりすることを目的としています。
- しかし、それぞれサービスを提供する対象ごとに制度が異なるため、事業者が高齢者と障害児・者の両方にサービスを提供するためには、これまで、それぞれの制度ごとに指定を受けるか、区市町村から特別な指定を受ける必要がありました。
- このため、障害児・者が高齢になり介護保険の被保険者となると、介護保険サービスの利用を優先するという原則により、その障害児・者がこれまで利用してきた障害福祉サービス事業所が使えなくなるという場合があります。
- そこで、障害児・者が65歳以上になっても、使い慣れた事業所においてサービスを利用できるようにすることや、地域の実情に合わせて限られた福祉人材を有効活用するという視点から、高齢者と障害児・者が同一の事業所でサービスを受けやすくするための制度改正が行われました。
- 平成30年度の介護保険制度の改正において、デイサービス(通所介護)、ホームヘルプサービス(訪問介護)、ショートステイ(短期入所生活介護)について、高齢者や障害児・者が共に利用できる「共生型サービス」が介護保険、障害福祉にそれぞれ位置付けられました。
- この改正により、障害福祉サービス事業所が共生型サービスの指定を受けることで、高齢者を受け入れることができるようになります。
- 共生型サービスでは、高齢者や障害児・者を受け入れることから、それぞれの利用者の特性に応じたサービスの質の確保や両制度で異なる職種(介護支援専門員と相談支援専門員など)の連携を図ること等が求められます。



【取組の方向性】

- 新たに創設された共生型サービスが適切に提供されるよう、介護サービス事業者等に対し、運営等の基準や介護報酬の仕組み等について、必要な情報提供を行っていきます。
- また、適切なサービスの提供体制と質が確保されるよう、関係部署と連携を図りながら、必要な指導を行っていきます。

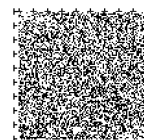
イ 総合的な福祉サービスの推進**【現状と課題】**

- 高齢者、障害者、子供など、年齢や必要とする支援の内容にかかわらず、誰もが適度な距離感の中で一緒に過ごし、相談したり、専門的な支援を受けることなどができる、総合的な福祉サービスを提供する事業所は、分野や世代を超えて分け隔てなく支え合う地域福祉の拠点となり得ます。
- 都内では、以下に紹介しているように、保育所と認知症対応型通所介護を仕切りのない一つの空間で運営し、さらに地域の誰もが気軽に立ち寄れるようにしている事業所や、同一の建物で運営する養護老人ホームの高齢者と保育所の児童が日常的に交流している事業所があり、分野や世代を超えた交流や支え合いが生まれています。そうした事例は限定的です。
- 高齢者介護、障害者福祉、子育て支援等の福祉サービスを提供する事業所の設備・人員に関する基準は、国が定める基準を参酌するなどして、都や区市町村が分野ごとに条例等で定めていますが、同一の建物等でこれらのサービスを組み合わせて実施する場合の基準の適用については、十分に整理されていませんでした。
- このため、国は、平成28年3月、現行の基準の範囲内で人員の兼務や設備の共用が運用上可能な事項を示すガイドライン⁹を発出しました。

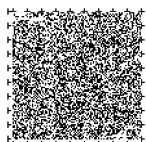
【取組の方向性】

- 総合的な福祉サービスを提供する事業所の運営の実態や効果等について、都内の好事例等を通じ、区市町村や事業者へ情報提供を行います。

⁹ 地域の実情に合った総合的な福祉サービスの提供に向けたガイドライン



- 地域の実情に応じ、総合的な福祉サービスの展開が図れるよう、設備・人員基準の運用等について、区市町村や事業者に対する情報提供を適切に行います。
- 整備や運営に係る各分野の補助制度等に基づき、支援を行います。

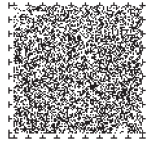




事例

多世代が同じ空間で過ごす取組

NPO 法人 地域の寄り合い所 また明日（小金井市）



<取組に至った経緯・背景>

- 「また明日」を運営する森田さん夫婦は、20 年以上前、特別養護老人ホームの社会福祉士、併設病院の保育士として働いていました。ある日、ダウン症の女の子を特別養護老人ホームへ連れていったところ、高齢者が一瞬にして華やいだ表情に変わり、女の子も満面の笑みで高齢者の懐へ入っていきました。それまで、「与えられる」だけの存在であった両者が結び付くことで、互いに「与える」存在にもなったその瞬間に立ち会えたことで、高齢者と子供が一つの空間で過ごせる施設をつくりたいと考えるようになり、平成 18 年 12 月に「また明日」の運営を開始しました。

<取組の内容>

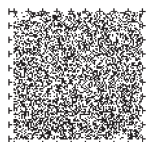
- 認知症対応型デイサービス、認可保育所、認可外保育所、地域の寄り合い所の 4 つの事業を、壁を取り払ったアパート 5 室分の 1 つの空間で行っています。
- デイサービスと保育所とで、午後のおやつ時間は唯一共通の時間としているものの、その他であえて一緒に何かをするプログラムは設けず、高齢者の主体性を尊重しています。園児の散歩に付き合ったり、食事の手伝いをしたり、泣いている子をあやしたりと、仕切りのない空間ならではの自然な関わり合いをしています。
- 寄り合い所は誰でも出入り自由で、日中は子育て中の方や地域の方、放課後や夏休みには多くの小中学生が来訪し、高齢者や園児と一緒に過ごします。
- 職員はサービス種別ごとに配置していますが、高齢者と園児とを分け隔てることなく関わっています。
- ボランティア等の協力で、子供の学習支援や子供食堂の取組も行っています。
- 職員が地域の方々と見知った関係であることを大切にしています。地域の人たちが気軽に立ち寄れるようにするためには、場所があればよいということではなく、「顔なじみがいるから」「赤ちゃんがいるから」等の「来たくなる理由がある」ことが必要だからです。



施設内の様子（デイサービス、保育所、寄り合い所を利用している方々同士で自然と交流が生まれています。）

<メリットや実感している効果>

- 認知症対応型デイサービスに通う方の多くは、他の施設で問題があり断られた方や、これまで施設に通うことを拒んでいた方、在宅で寝たきりに近い生活を送られ



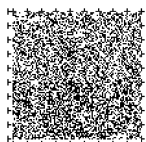
ていた方などです。

しかし、「また明日」で園児や飼っている動物と過ごす中で、「支えられる」側だった認知症の高齢者が主体性を持ち、「支える」側ともなり、落ち着きを取り戻し、穏やかに過ごしています。そのため、不安になって施設の外へ出てしまうようなことはありません。

- 園児たちも高齢者と一緒に過ごす中で、大きな音や声を出さない、人の前を横切らないといったマナーや、人との接し方を自然と学んでいます。
- 働く職員にとっては、立場を固定されていないことが、働きやすさにつながっています。

また、サービス種別ごとの職員や主体性を持った高齢者など、見る目が多いこともあり、開所以来大きな事故は起きていません。

- 放課後や夏休みなどには多くの小中学生が寄り合い所に来訪しています。それがきっかけで、学校の先生が見学を訪れ、家庭科の授業で取り上げられるなど、学校とのつながりもできてきています。





事例 日常生活の中で、世代間交流を図る取組

社会福祉法人江東園（江戸川区）



<取組に至った経緯・背景>

- 昭和 37 年に江戸川区内で、養護老人ホーム「江東園」を開設した社会福祉法人江東園は、昭和 51 年に、保育所設立への地域の期待の声が高まったことから、江戸川保育園を設立しました。昭和 62 年、施設の建替えを機に、保育所、養護老人ホーム、特別養護老人ホーム（以下「特養」という。）、高齢者在宅サービスの 4 施設を合わせた幼老統合施設として、本格的な世代間交流をスタートしました。

<取組の内容>

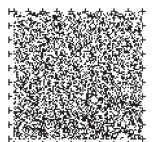
- 毎朝、園庭に園児たちと養護老人ホームの入所者の方々が自由に集まり、お互いに大きな声で挨拶をして体操が始まります。高齢者も思い思いに身体を動かします。
- 体操が終わると、自由交流の時間となり、園児がお気に入りの高齢者の膝の上に座っておしゃべりを始めたり、抱っこをせがんだり、自然なコミュニケーションが図られています。
- 特養入所者は、重度化が進み、園庭に下りることが難しくなったことから、園児たちはクラス毎に日替わりで特養へ出向き、一緒に体操をしています。
- また、体操の時間が終わると、認知症デイサービスへ園児たちが訪問し、触れ合う機会も設けています。
- 月に一度、園児と施設入所の高齢者が 1 日共に過ごす「オープン保育」を実施し、一緒に遊んだりお昼ご飯を食べたりして過ごしています。
- 別の事業所では、知的障害者と高齢者のデイサービス、事業所内保育所を同じ建物で運営しており、季節行事やクラブ活動を通して交流が図られています。
- 直接の交流の時間以外でも、家族のような自然な距離感で生活することを心掛けています。保育スペースのそばで高齢者のリハビリスペースを設け、お互いが見える工夫をしています。



施設内における交流の様子

<高齢者や子供にとってのメリットや実感している効果>

- 普段は表情が乏しい認知症デイサービスに通う方も、園児たちと触れ合うことでいい表情になります。
- セタやクリスマス会といった季節行事も大切にしています。紙芝居を読む係やお



遊戯会における配役等、高齢者にも役割を与えることで、とても生き生きしています。

- 世代間交流が行われていることは、職員募集の際のアピールポイントにもなります。卒園した園児が大人となり、同施設の職員として働いている例もあります。
- 世代間交流を続けていくためには、職員同士の連携が重要です。お互いの専門性を尊重しながら、研修や行事などを通してチーム意識を育んでいます。

